

会議録【要点筆記】

会議名称	令和7年度第5回米沢市観光振興委員会	
開催日時	令和8年3月13日（金） 14時00分～15時15分	
開催場所	置賜総合文化センター 203 研修室	
出席者	(氏名)	(所属団体等)
	委員長 遠藤 勲	一般社団法人米沢観光コンベンション協会 理事
	副委員長 田中 明子	米沢商工会議所 理事兼事務局長
	委員 入間川 悟	東日本旅客鉄道株式会社 米沢駅長
	委員 遠藤 平右衛門	温泉米沢八湯会
	委員 黒澤 光高	米沢ブランド戦略会議委員
	委員 寒河江 大輔	上杉文化エリア懇話会
	委員 高橋 弦子	米沢市社会福祉協議会 総務管理課長
	委員 松田 智博	協同組合米沢市商店街連盟 理事長
	委員 宮崎 市朗	公募委員
欠席者	(氏名)	(所属団体等)
	委員 小形 喜代之	山形おきたま農業協同組合 米沢・川西地区統括支店長
	委員 黒田 三佳	米沢市国際交流協会 会長
	委員 中嶋 朱実	NPO 法人米沢伝承館 副理事長
	委員 野本 真穂	山形県立米沢鶴城高等学校 教諭
	委員 宮坂 匡	公益社団法人米沢青年会議所 まちづくり委員長
	オブザーバー 宮嶌 浩聡	プラットヨネザワ株式会社 代表取締役
	オブザーバー 小田 航平	プラットヨネザワ株式会社 取締役
	事務局 青木 一成	米沢観光コンベンション協会 事務局長
事務局出席者	富取課長、川井課長補佐、佐藤（功）主査、斎藤主査、佐藤（祥）主任	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 第5期米沢市観光振興計画（案）のパブリック・コメントの結果について（資料1～3） ・ 令和8年度観光関連予算について（資料4） 	
会議内容		
<p>【1 開会】</p> <p>【2 委員長挨拶】</p> <p>■委員長</p> <p>・ 先月開催した雪灯籠まつりの入込客数は昨年を大幅に超える結果となった。天元台においては、市と観光コンベンション協会プロモーションに力を入れていることによ</p>		

り、700人以上のインバウンドの方に来ていただいているようである。観光客に米沢に足を運んでいただきリピーターになってもらうこと、また、交流人口の拡大を関係人口の拡大にもつなげていくこと、さらには移住にもつなげることが重要であると考えている。

- ・本日は最後の観光振興委員会となるため、委員の皆様から何か一言ずついただければと考えている。

<議事へ移る前に、事務局より協議事項等について説明する>

■本会議の定足数について、委員9名が出席しており、総委員数の過半数を超えていることから、本会議は成立する旨説明する。

■会議録の公開等について次のとおり説明し、協議を行う。

- ・本日の会議録については、要点筆記とし、発言者名は記載しないこととする。
- ・会議録は公開することとする。なお、次のいずれかに該当するとき、会議録の全部または一部を非公開とすることができる。
 - (1) 法令等の規定により公開することができないとされているとき。
 - (2) 会議での審議内容が、不開示情報に該当すると認められるとき。
 - (3) 会議を公開することにより、公正かつ円滑な審議が著しく阻害されると認められる場合で、審議会等の決定により、その会議の全部又は一部を公開しないとしたとき。
- ・委員の方の個人情報については、国の機関、地方公共団体、関係団体、市民及び報道機関より、情報提供の依頼があった場合は、名簿に掲載してある範囲に限って提供させていただく。

→ 委員より意見等無いため、上記のとおりの対応とさせていただく。

■本会議の議事録署名人について、田中副委員長、宮崎委員へお願いする。

【3 議事】

【報告事項 第5期米沢市観光振興計画（案）のパブリック・コメントの結果について】

■事務局より、資料に沿って説明（資料1～3）

■委員長

- ・事務局より計画本冊の修正案の説明があったが、委員の皆様におかれましては、こちらの内容で最終案ということをご理解いただければと思う。最終案に対する意見や、この2年間の任期を振り返っての感想等について、委員の皆様より何か一言ずついただきたい。

■委員

- ・商工会議所の新会館は現在建設中であり、この新会館周辺の商店街を観光客の導線に組み込むことを検討している。米沢駅から新会館周辺の中心市街地を経て上杉文化エリアへと向かう観光客の導線を設計することで、観光客に本市の魅力を効果的に伝えていきたいと考えている。

- ・毎年、姉妹都市をはじめとする市外の地域から小中学生が本市を訪れているが、市内の宿泊施設が不足しているため、宿泊先が福島方面となってしまうケースが多いと聞いている。本市の姉妹都市である東海市の中学生には、ぜひ本市に宿泊してもらいたいと考えている。そのため、八湯会においては、分宿も視野に入れながら、受入体制の強化に一層取り組んでいただきたい。

■委員

- ・計画に記載されているリピーターの創出は、JRとしても大変ありがたいものである。JRでは、JREポイントを一定程度貯めることで行き先がランダムに決まる「どこかにビューーン！」といったサービスを実施しており、これを利用して、意図せず米沢を訪れる方もいると考えられる。また、2月の平日に新幹線の利用促進を目的とした「キュンパス」といったサービスも実施しており、同様に米沢を訪れる方が一定数いるものと思われる。リピーターの創出においては、このようなサービスを通じて米沢を訪れた方に「もう一度来たい」と感じてもらえるかどうか重要である。
- ・私自身は仙台市に居住し、現在は本市へ単身赴任しているが、本市には多くの魅力があると実感している。今回の計画修正案において、ふるさと納税者への情報発信が追記された点については、情報発信を通じて「米沢に行ってみよう」と思ってもらえるきっかけにつながるものであり、大変有意義であると評価している。

■委員

- ・これまでの意見がまとまり、計画案ができあがったところであるが、この計画が本市にとって有効な手立てとなることを切に願っている。まちづくり総合計画も新たなものとなり、これに合わせて観光振興計画も新しくなることから、今後の観光についてしっかり取り組んでいかなければならないと考えている。
- ・最近の旅館においては、いわゆる「客を選ぶ」といった面もあるのではないかと感じている。例えば、宿泊人数を抑えて単価を上げる、あるいは単価の低いお客様や対応の難しいお客様はお断りするといった考え方もあり、これはある意味で客層を選んでいるということになる。一方で、私の旅館では、山を目的に来られるお客様にはぜひ来ていただきたいと考えており、どのようなお客様に来ていただきたいのかを明確にすることで、お客様の満足度が変わることから、お客様のニーズと旅館側が提供するサービスとの合致が重要になってくると考えている。また、最近ではインバウンドのお客様も増えており、カナダやアメリカ、フィンランド、オーストラリア、チェコといった国から来られる方もいる。こうした方々は主にバックカントリーを目的として来訪しており、当館としてもそれに合ったサービスの提供を行っている。このように、どのような方に来ていただきたいのか、また来ていただいた方にどのような価値を感じていただくのかという点を大切にしながら、今後の本計画の推進に取り組んでいきたいと考えている。

■委員

- ・計画案がまとまり、その内容については、目まぐるしく変化する観光産業の中において、多種多様な施策を展開していくためのベースとなる計画であると感じたところで

ある。

- ・ 3月8日に、共同通信において、現在、山形県が国内外のメディアから注目されているといった記事が配信されたこともあり、山形県の観光業にとって一つの大きな節目になるのではないかと感じている。一方で、AIを活用して山形県の観光の将来展望について調べてみると、蔵王の樹氷や出羽三山の山岳信仰といったものが取り上げられ、置賜より北の地域がクローズアップされる傾向にある。山形県が注目されているという流れを踏まえ、置賜地域においては広域的な取組が重要である。食や武家文化に代表される米沢らしさについてより一層PRしていく必要があり、米沢単独では難しい部分については、置賜地域内での広域連携により観光振興を図っていくことが重要であると考えている。

■委員

- ・ 計画案に歴史や文化といったワードが多く記載されており、我々の団体としても身が引き締まる思いである。今後、上杉謙信公の生誕500周年に向けて頑張っていきたいと考えているのでサポートを引き続きお願いしたい。また、4月から新たに観光文化スポーツ部が創設されるとのことで、観光・文化・スポーツの連携が一層強化されていくものと期待している。文化の分野においては、文化財の保存と活用のバランスを図ることが重要であるため、引き続きその点に注力していきたい。

■委員

- ・ 先月の雪灯籠まつりに知人が初めて訪れ、「米沢には素晴らしいおまつりがある」と大変感動していた。来年もぜひ訪れたいとの話もあり、市民として大変嬉しく、心に残る出来事であったことから、本日お話をさせていただいた。今後、米沢の観光がさらに飛躍するよう、本計画に盛り込まれた施策が着実に実現され、多くの観光客に米沢を訪れていただければと考えている。また、住民一人ひとりが障がい者や高齢者に配慮した優しいまちづくりを推進することで、観光振興にもつなげていくことが重要であると考えている。

■委員

- ・ 質問であるが、市議会からのパブリック・コメントへの回答資料に記載されている「ふるさと納税者への情報発信」について、どのような手法を想定しているのか伺いたい。
- ・ 市民からのパブリック・コメントに対する回答については、どのような形式で市民に周知・公表していくのか、併せて伺いたい。

■事務局

- ・ ふるさと納税者への情報発信については、既に実施しているところであり、寄附をいただいた方に対して、メールや公式LINEを活用し、本市の観光情報を発信している。今後も商工課と連携し、継続して取組んでいきたい。
- ・ 市民からのパブリック・コメントに対する回答内容については、市のホームページにおいて公開することとしている。

■委員

- ・議会からのパブリック・コメントへの対応として修正された計画案を見ると、「スポーツ」という文言が複数箇所に追記されているが、無理矢理付け足したような印象を受ける。計画本冊の重点的視点においてスポーツの文言が追記されているものの、スポーツと長期滞在との関連性が見えにくく、当該部分の内容との整合性に疑問を感じるところである。一般的に、スポーツは観光というよりも競技や大会のイメージが強いため、単にスポーツという文言を加えるだけではなく、計画全体との関連性や位置付けをより明確にする必要があるのではないかと考える。

■事務局

- ・いただいたご意見については、事務局の方で対応案を検討することとする。

■委員

- ・近年、平日にスキー場を訪れる利用者は高齢者が多く、若年層は少ない傾向にあるように感じている。スキー場を訪れた高齢者が、帰りに白布温泉や小野川温泉に立ち寄り入浴していくケースも見られ、こうした動きは観光につながっているものと考えられる。また、こうした温泉地でおみやげを購入して帰るということで観光消費額の増加にもつながっている。夏はトレッキングや登山を楽しむ高齢者も多く、天元台での高所トレーニングを目的に訪れた方々が白布温泉や天元台周辺に宿泊することもあり、こうした方々がおみやげを購入するといったこともある。スポーツと連携した観光振興を図る上では、どのような層をターゲットとし、どのようなサービスを提供するかを検討することが重要であり、これが観光消費額の増加につながるものと考えられる。
- ・国内で開催されているマスターズスキー大会では、参加者が約700名規模の場合、開催地周辺の温泉地が満室になるとのことであり、このような大会の開催は多くの高齢者の来訪につながることから、ぜひ検討いただきたい。加えて、大きな目標として上杉謙信公生誕500周年イベントの開催があるが、事前にプレイベントを複数回実施し、来訪者に繰り返し米沢へ足を運んでいただく工夫が重要である。

■委員長

- ・私の方からもいくつか述べたい。先日、国土交通省東北運輸局の局長のお話を伺う機会があったが、その中で、観光においては宿泊が重要であるとお話があった。宿泊を伴うことで、食事や夜間・早朝の観光行動につながり、結果として観光消費額の増加につながるためである。こうした点、今後考慮していきたい。
- ・本市には米沢牛といった魅力的な資源があるが、インバウンドの方々にはまだ十分に認知されていないことから、今後さらにPRを強化していく必要があると考える。
- ・近隣地域からの来訪者は比較的消費額が小さい傾向にある一方で、東京圏や海外からの来訪者は消費額が大きい傾向にある。移動時間と観光消費額は一定の関係があると考えられ、観光消費額の増加を図るためには、遠方からの誘客を重視する必要があると考える。

【報告事項 令和8年度観光関連予算について】

■事務局より、資料に沿って説明（資料4）

■委員長

- ・委員の皆様より何か意見等あるか。無ければこれで議事を終了する。

【4 その他】

■委員

- ・最近「すき焼きのまち米沢」というのぼり旗を市内でよく見かけるが、なぜすき焼きに特化しているのか教えてほしい。

■事務局

- ・明治時代に米沢に在住していたチャールズ・ヘンリー・ダラス氏が、米沢を離れる際に米沢の牛を横浜へ連れて行った年から150年が経過したことから、米沢牛150周年を記念したPRが行われている。横浜に持ち帰られた牛が牛鍋として食されたとの話があることから、担当課である農業振興課において、米沢牛のすき焼きのPRに取り組んでいるところである。

■事務局

- ・委員の皆様におかれましては、2年間の任期の中で多くの貴重なご意見をいただき、そのおかげで本計画案を取りまとめることができた。本計画案については、4月にパブリック・コメントへの回答内容と併せて市議会に提示し、同月中の策定を予定している。今後は、計画に基づく施策の推進について観光課を中心に取組んでいくこととしているため引き続きお力添えを賜りたい。

【5 閉会】

この会議録（会議要旨）が正確であることを承認します。

会議録（会議要旨）署名人

委員 田中明子

委員 高橋亨博